

日本共産党区議会議員  
Japanese Communist Party

# 安藤たい作

区政報告 ニュース 第40号



昨年度決算を審議する決算特別委員会がスタート。全議員と区長・部課長が一同に介しエキサイティングなやりとりをします。傍聴が音声のみ、というのが玉にキズです。

## 「不燃ごみを燃やす!？」

### 35年続いた分別方法の変更を、わずか20日で決めるのはいかなもののでしょうか

ごみの分別方法などを定めていた「品川区一般廃棄物処理基本計画」の改訂の動きが進んでいます。これまで不燃ごみだったものを燃やし、熱エネルギーとして回収する「サーマルリサイクル」の実施を含む、大幅改訂です。ところが区はこの計画を10月1日からわずか20日間の意見公募のみで、来年度からの実施を狙っています。

今回出された計画素案のポイントは、1日に発行される広報しながら11日によれば以下の通りです。

①来年度から、現在不燃ごみとして収集している廃プラスチックやゴム、皮革も可燃ごみとして燃やし、熱エネルギーとして回収し発電などに利用するサーマルリサイクルを実施する

②計画期間は平成28年までの10年間、おおむね5年を目途に見直す。

#### 後景に追いやられたごみの減量と資源回収

サーマルリサイクルの全面実施に向けて、9月から区内5%の世帯数に広がったモデル地区では、汚れていないプラスチック製容器包装が試験的に資源として回収されています。残ったプラスチックなどは燃やしてサーマルリサイクルするというイメージだと思われませんが、

広報の計画素案の説明を読んで、も、肝心の「プラスチックは資源として回収する」の記述はありません。なぜサーマルリサイクルの方ばかりを強調するのでしょうか。燃やしてしまえば「ゴミは見えなくなり、更に熱としてリサイクルされ役立つんだ」というイメージは、「ごみは出して、燃やしてしまえばいい」という安易さをプラスチック製品を生産する事業者にも、消費者である区民にも広げかねません。「ごみ問題の解決にはなんといてもごみの発生抑制」という考え方も大きく崩すことにつながります。加えてプラスチックごみの燃焼は、CO<sub>2</sub>や様々な有害物質の排出の危険性も指摘されています。

#### 物申せる期間はわずか二十日間のみ

今回の改訂は現在の分別方法になつてから35年ぶりであり、以上見たように区民意見が分かれる様々な問題も含まれています。ところが計画素案に対して意見を述べる機会であるパブリックコメント(区民意見公募手続)は10月1日から31日までのわずか20日間のみ。少なくとも期間を大幅に延長すべきです。

不燃ごみ  
燃やしたら...



漫画: 安藤たい作

安藤たい作プロフィール '74年宮城県仙台市生まれ。国立宮城教育大卒。'98年漫画家を志し上京。'02年青年誌奨励賞受賞。'06年の区議補選で初当選。

安藤たい作ニュース は、「品川区議会における政務調査費の交付に関する規定」で定める用途基準「広報・活動費」に基づき、政務調査費によって発行されています。